

飲食店の営業時間からみた 夜間における商業地特性の分析

—石川県金沢市を事例に—

12210162 村田祐基

はじめに

- 都心の商業地は多くの飲食店が集積し、都市住民や観光・ビジネス客に利用されている（杉本ほか 2019）
- これまで商業に関しては小売業中心であったが、近年の研究では飲食サービス分野の重要性が高まってきている（牛垣 2017）
- 夜間（ナイトタイム）において飲食業は特に利用されており、**夜間消費の重要な役割を担っていると考えられる**

既存研究①

- 夜間に関する研究

池田（2017）

ナイトライフの研究動向を整理

ナイトライフ＝夜間（ナイトタイム）における夜間経済（ナイトエコノミー）や夜間文化（ナイトカルチャー）といった夜の活動
それまで地理学において日常の地理は本来的に日中の活動を想定しており、夜間に関しては、その夜間経済活動に関するものを含み、ほぼ無視されてきたという課題がある

既存研究②

- 飲食店に関する研究

郭（2017）

和歌山市を事例に、2000年代の飲食店の立地動向を分析
経営形態別（チェーン店と単独店）と業種別の立地変化が中心商業地の衰退と郊外の商業集積に特徴づけられることを明らかにした

- ・夜に着目した研究では日中とは異なる社会的意味や空間構造を有することが指摘されてきたが、より夜間に着目した研究は少ない
 - ・飲食店の立地特性を明らかにする研究の多くが、経年的変化などのマクロな時間軸を取り扱っている
 - ・飲食店は業種や立地によって営業する時間帯が異なる場合があり、それが商業地を特徴づける重要な要素となる可能性がある（杉本ほか 2019）
- 営業時間に着目したミクロな時間軸での研究

既存研究③

- ・飲食店の営業時間に関する研究
 - ・杉本ほか（2019）
東京都の3つの商業地（新宿、銀座、渋谷）を対象に飲食店の集積や営業時間からみた商業地の動的特性を検討
- 夜が深まるにつれて特定エリアに限定的なジャンルが集積

研究目的

- ・杉本ほか（2019）は大都市中心部を対象にしており、夜間における商業地の形成や機能については、大都市特有の人口規模や高密度な都市構造を前提として議論
- ・人口規模が小さく商業機能の分散や郊外化が進行している地方都市の中心市街地において、夜間ではどこでどのような店舗が営業しているのかについては十分に明らかにされていない
- ・飲食店の夜間の営業時間データを用いて、時間帯ごとの営業する店舗の分布や種類を分析することで、夜間における地方都市の商業地の特性を明らかにする

研究対象地

- ・石川県金沢市の中心市街地
- ・商業機能やビジネスの中心地
- ・しかし、金沢大学や県庁舎などの郊外移転で中心市街地の衰退が懸念される

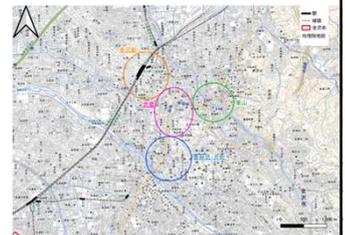


図 調査地域
(国土数値情報、国勢調査により作成)

研究対象地域

市街地エリアは
金沢駅、武蔵、香林坊・片町など
複数の拠点で構成されている

→異なる商業地特性が現れやすく、
本研究対象に適していると考えられる

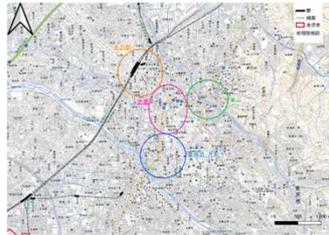


図 調査地域
(国土数値情報, 国勢調査により作成)

研究方法

・「ぐるなび」のWebサイトに掲載されている飲食店データ利用
店舗詳細には店名、住所、営業時間情報が含まれる
(商業施設の分析を行う際、一般的に使われるテレポイントデー
タは営業時間情報が登録されている店舗が少ない)

(時間区別)

18時-30時までを「夜間」と定義(国土交通省観光庁『ナイトタ
イムエコノミー推進に向けたナレッジ集』を参考)

18時-24時「夜」の営業 24時-30時「深夜」の営業

・「ぐるなび」のジャンル区分を基準に16ジャンルを取り扱う
(居酒屋, 和食, 寿司, 焼肉・ホルモン・鉄板焼き,
イタリアン・フレンチ, カレー, 中華, 洋食・西洋料理, 鍋,
アジア・エスニック料理, ラーメン・つけ麺,
バー・バル・ダイニングバー, カフェ・スイーツ,
宴会・カラオケ・エンターテイメント,
ファミレス・ファーストフード, その他)

・1店舗あたり1つ以上のジャンルが登録されている
具体的に、居酒屋にも和食にも分類されている店舗などがある
そのため、ジャンル別集計ではジャンル重複のある集計となる

・データ処理

データ収集2025年11月

- ①曜日ごとの営業時間を算出(月～日曜日)
- ②平日(月～金)と休日(土, 日)に分け,
ジャンルごとに各営業店舗数を算出
- ③夜間の営業時間別に地図上に可視化
具体的には,
21時, 24時, 27時閉店する店舗とそれ以降も営業する店舗に分けた

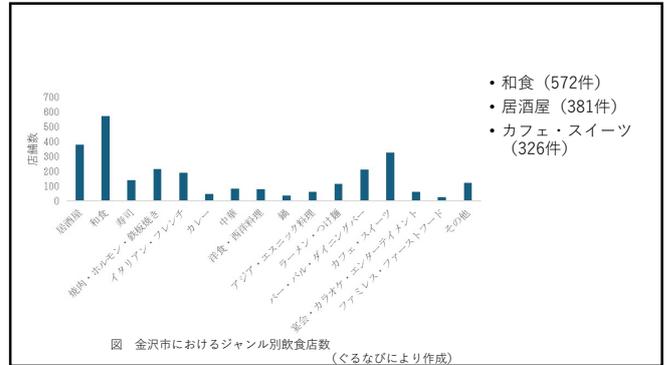
研究結果

表 金沢市の条件別飲食店数(2025年11月時点)

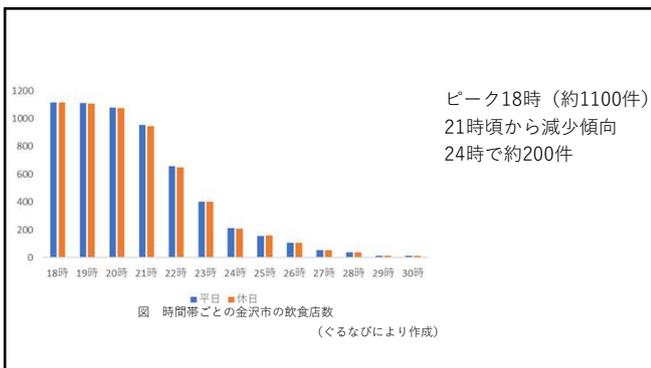
対象地域	飲食店数 (ジャンル重複なし)			飲食店数 (ジャンル重複あり)		
	合計	営業時間情報あり	営業時間情報なし	合計	営業時間情報あり	営業時間情報なし
金沢市	2181	1317	864	2651	1780	871

(ぐるなびにより作成)

- 金沢市全体の飲食店数2181件
- 本研究で対象とするのは「営業時間情報あり」かつ「ジャンル重複あり」の1780件 (全体の67.1%)



- 和食 (572件)
- 居酒屋 (381件)
- カフェ・スイーツ (326件)



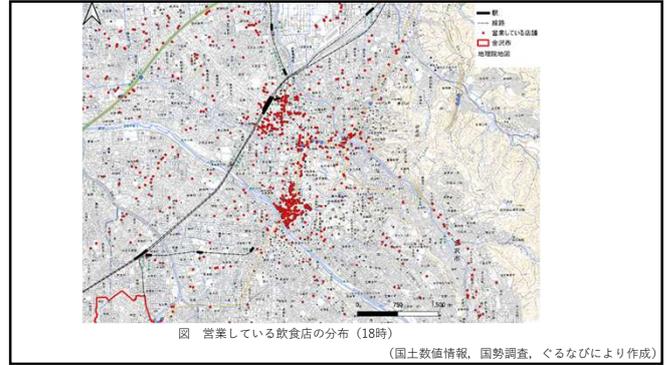
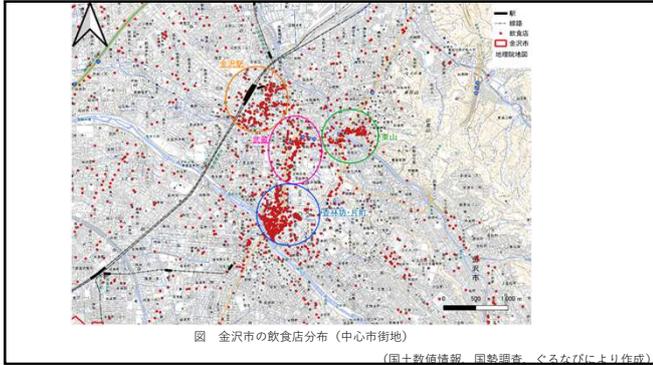
ピーク18時 (約1100件)
21時頃から減少傾向
24時で約200件

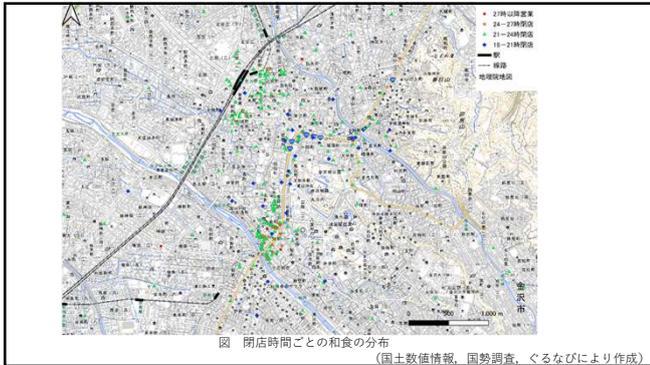
表 時間帯ごとのジャンル別店舗数 (ジャンル重複あり)

平日	原簿属	夜			
		18時	21時	24時	27時
	和食	270	268	27	6
	居酒屋	353	288	27	6
	焼肉・ホルモン・鉄板焼き	79	74	0	0
	イタリアン・フレンチ	153	128	24	3
	カレー	124	105	18	1
	中華	50	22	5	4
	韓国・西洋料理	46	31	4	1
	焼	55	45	8	1
	アジア・エキゾチック料理	29	27	4	2
	ラーメン・つけ麺	29	27	4	2
	バー・パル・ダイニングバー	77	61	22	4
	カフェ・スイーツ	111	105	71	25
	宴会・カラオケ・エンターテインメント	98	47	8	1
	ファミレス・ファーストフード	37	35	19	6
	その他	19	17	7	5
	その他	52	38	8	7
休日	原簿属	270	268	68	3
	和食	352	288	28	7
	居酒屋	79	74	0	0
	焼肉・ホルモン・鉄板焼き	153	128	23	3
	イタリアン・フレンチ	124	105	18	1
	カレー	50	22	5	4
	中華	46	39	4	1
	韓国・西洋料理	57	44	4	1
	焼	29	27	4	1
	アジア・エキゾチック料理	29	27	3	0
	ラーメン・つけ麺	78	61	22	5
	バー・パル・ダイニングバー	109	104	71	25
	カフェ・スイーツ	94	85	7	1
	宴会・カラオケ・エンターテインメント	37	35	19	6
	ファミレス・ファーストフード	19	17	7	5
	その他	52	38	7	7

(ぐるなびにより作成)

- 「夜」では居酒屋、和食が多いが様々なジャンルが営業
- 夜が更けるにつれてバー・パル・ダイニングバーが占める割合が大きくなった (24時、27時時点では最大のジャンル)
- 2次会で利用されるジャンルが残る





結果のまとめ

- ・飲食店の集積地は金沢駅や武蔵，東山，香林坊・片町といった，CBD（中心業務地区）に該当する地区とその周辺
- ・時間帯ごとの比較においても「夜」の比較的最早い時間まで同様の傾向が確認された
- ・武蔵，東山は比較的早くに営業終了し，金沢駅，香林坊・片町で営業を継続する店舗が多かった
- ・金沢駅は香林坊・片町より分布が分散傾向にあった
- ・夜が更けるにつれて飲食業が中心市街地の特定の範囲に集中し，バー・パル・ダイニングバーをはじめ酒類を提供し，娯楽性の高い業種が「深夜」の飲食業の中心となる

エリアごとの分析

（香林坊・片町）

- ・片町の繁華街は，買い回り品中心のショッピング街という「昼の街」と，飲食店・娯楽施設を中心とする歓楽街という「夜の街」の二面性を有している（藤田・田林 2007）
- ・24時を境に「夜の街」が飲食全体
- **飲酒・娯楽中心，特定エリアに集積**
- ・繁華街という一つの空間において，夜から深夜にかけて歓楽性が特に強まる街区が成立（杉本ほか 2019）
- ・「都市再生緊急整備地域」の選定
- 「昼と夜の異なる魅力を生かした活力を向上」で今後より歓楽街としての特徴を増大させると考えられる

(金沢駅)

- ・香林坊・片町同様に「夜」の営業が集中し、「深夜」の営業が継続
しかし、特定エリアの集積ではなく、分布が分散
 - ➡金沢駅は香林坊・片町、と武蔵の商業化を背景に、
金沢駅は日本ではめずらしく駅前にも関わらず商業地区が形成されてこなかった (高橋ほか 1986) …①
 - ・郭 (2017) では会社員の利用で地方都市のターミナル駅に飲食店が集積しやすくなっていることが確認されている
金沢駅も同様に集客要因は通勤の移動であり、電車やバスの運行が終了する時間 (深夜に切り替わる時間) までの営業が多くを占める…②
- ①歓楽街としての特性を持たず、②公共交通に影響される商業地であり、「深夜」の滞留や回遊性を前提とされていない

(武蔵)

- ・時間帯を限定しなければ飲食店の代表的な集積地
 - ・夜間の営業は時間経過によってほぼ見られない
 - ・集積の大半が近江町市場やその向かいの百貨店金沢エムザに位置
- 近江町市場は北陸新幹線開業をきっかけに市民中心の利用から観光客中心の利用形態をとるようになった (神谷ほか 2019)
新型コロナウイルス流行によって観光客利用が減少すると、市場内の多くが営業時間を短縮、今も営業短縮を継続している店舗が (鮮魚店など)
飲食店だけでなく、小売業の店舗が夜間に営業終了で減少
夜間の需要が減少し、昼間の商業地としての役割を担うため、夜間は商業地としての機能が著しく低下

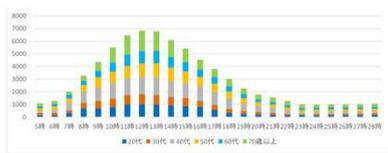


図 時間帯別来街者数 (武蔵) (歩行者動態調査書により引用)

・実際に武蔵の夜間の来街者数は極端に少なく需要も少ないと言える

(東山)

主要な業種が夜間にあまり営業していないカフェ・スイーツ
武蔵と同様に日中の営業が中心

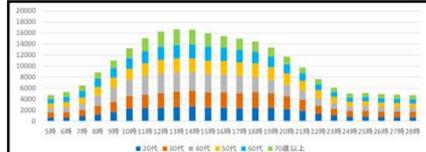


図 時間帯別来街者数 (金沢駅) (歩行者動態調査書により引用)

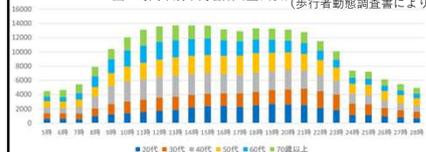


図 時間帯別来街者数 (香林坊・片町) (歩行者動態調査書により引用)

おわりに

(商業地の特性について)

- 香林坊・片町は夜間の商業地としての役割を持つだけでなく夜から深夜にかけて特定の地域で歓楽街としての特性がより強くなる
- 金沢駅は夜の商業地としての役割を担っているものの深夜には歴史的背景と交通によってその役割が薄れる
- 武蔵や東山は夜間ではなく日中の商業地（観光地としての特性）

(地方特有の現象について)

- 金沢市を含めた地方都市は郊外の人口が増加し、中心部は減少傾向にある
- 県庁舎や金沢大学などの人口を集める機能を持つ機関が郊外に移転→中心市街地の夜間人口の減少、夜間営業の困難化
- 全ての夜間営業地区を支えるだけの人口規模が備わっていない
→特定エリアの集積がより顕著に現れるのではないかと
(香林坊・片町の夜間の集中、武蔵、東山では日中の営業のみ)
- 他の地方都市同様に人口全体も減少傾向にあり、
- 「都市再生緊急整備地域」に金沢市中心市街地が選定されたことで再開発が進むことが考えられる
- 商業地特性の変化の発生、**観光または人口規模に沿ったまちづくりの方向性について議論する必要**

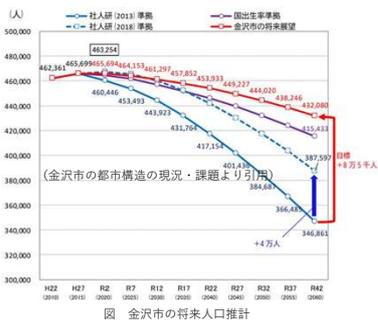


図 金沢市の将来人口推計

(金沢市の都市構造の現況・課題より引用)

本研究の課題

- 飲食店を商業地特性を測る代表として利用したが、小売業などの他の業種と合わせた分析
- 中心市街地の夜間を軸に分析したが、日中の細かな分析、他の規模の都市や郊外との比較で商業地特性をより詳細に分析
- 商業地特性について今回営業時間を用いたミクロな視点で分析を行ったが、年次比較と絡めることで、商業地特性の変化が可能になる

参考資料・文献

- 国土交通省 2019. 『ナイトタイムエコノミー推進に向けたナレッジ集』
<https://marketing-analytics.site/wp-content/uploads/2025/10/001279567.pdf>
- 金沢市公式ホームページ いいね金沢
<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/index.html>
- 近江町市場 - 金沢市民の台所として300年を迎えたみなさまの日常を変える小売市場
<https://ohmicho-ichiba.com/>
- 金沢商工会議所 RESASを用いた金沢市の地域経済分析より
<https://www.kanazawa-cci.or.jp/data/b5169888fed98f9de12d676bbc60ec.pdf>

- 池田真利子 2017. 世界におけるナイトライフ研究の動向と日本における研究の発展可能性. 地理空間, 10-2:67-84.
- 石橋研二 1990. 企業行動からみたファーストフード店の立地展開. 経済地理学年報, 36 (2) : 129-140
- 稲葉諒介・岡田智秀・横内憲久 2018. 都市部のウォーターフロントにおける飲食店の夜景成立要件に関する研究 - 「東京夜景」に着目して -. 土木学会論文集, 74, 29-38.
- 牛垣雄矢 2017. 商業地を対象としたミクロスケールな地理学研究的対象・視点・方法 - 1990年以降の論文を中心に -. 新地理, 65 (2) : 48-66
- 大谷友男 2002. 再起動 北陸新幹線 第2回 開業効果に沸いた北陸新幹線沿線の観光とその後. 北陸経済研究所.
- 郭朝浩 2017. 外食産業再編期における飲食店の立地動向 - 2000年代の和歌山市を例として -. 地理学評論, 90 (6) : 578-589
- 神谷陽斗・橋本佳哉・山田船乃佳 2019. 近江町市場に対する地元住民の評価と利用実態 - 北陸新幹線の金沢開通による影響に着目して -. 地理学報告, 121 : 53-58
- 杉本興輝・木田慧・飯塚遼・坂本優紀・池田真利子 2019. 飲食店の集積と営業時間からみた商業地特性の分析 - 夜間の新宿・銀座・渋谷の比較 -. 地理空間, 12 (3) : 227-245
- 杉山和明 1999. 社会空間としての夜の盛り場 - 富山市「駅前」地区を事例として -. 人文地理 51 (4) : 396-409
- 高橋伸夫・菅野峰明・村山裕司・伊藤悟 1997. 『新しい都市地理学』東洋書林.
- 高橋伸夫・矢ヶ崎典隆・伊藤悟・山下宗利 1986. 金沢市中心部における都心化の地理学的研究. 筑波大学人文地理学研究, 10 : 107-150.
- 藤田佳久・田林明 2007. 『日本の地誌7 中部圏』朝倉書店.
- 村山透・西塚享他・香川涼亮 2025. 立地競争と営業時間の戦略的補完関係の実証分析. 応用地域学研究, 28 : 25-49